

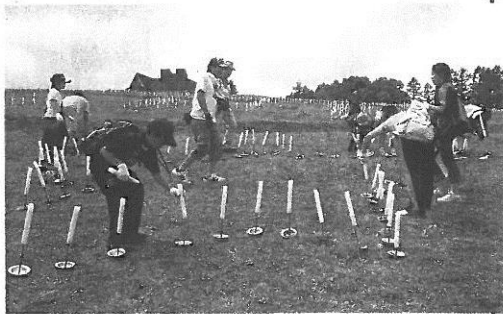
星槎グループと北海道の芦別市、帯広市が連携し、東日本大震災の支援活動として福島県相馬市の小中学生を芦別、帯広両市へ招いた。

(右はお礼に送られてきた年賀状)



< 下記は関連記事 >

キャンドルアートの準備作業をする
福島から保養合宿中の子どもたち＝
8月4日



【芦別】通信制の星槎大学(本校・芦別)と芦別市は、東日本大震災や福島第1原発事故の支援活動として23～27日、福島県相馬市の小中学生を芦別に招く。福島っ子の芦別合宿は夏に続き二回目。
同大学の体験学習プログラムとして実施する。芦別には、小

福島っ子冬も芦別へ

23日から小中生20人

スキー体験や「旭山」見学

学3年～中学2年生20人が訪れる。同市内の星槎大学校舎に宿泊しながら、スキー体験や旭山動物園の見学、市内の子どもとのスポーツ交流などを楽しむ。
同大学によると、芦別合宿の応募者は定員の2・5倍。「キャンドルアートやサクランボ狩りなど、夏の合宿の内容が子どもたちに好評で、ロコミで芦別の人気が高くなったようだ(担当者)」という。(川村史子)

柳月(本部・音更町)、肉牛生産のトヨニシファーム(帯広市)、回転ずし店なごやか亭(本社・釧路市)などが24日、十勝を訪れる福島県の子供たちにクリスマスプレゼントとしてケーキ、牛肉、十勝産食材のすしを提供し、十勝の食を楽しんでもらう。
福島県の子供たちの来勝は、星槎大学帯広サテライトなどを運営する星槎グループ

食の十勝楽しんで

(本部・神奈川県)と帯広市の、東日本大震災の被災者受け入れ事業の一環。小学3年生から中学3年生までの20人が23～27日、十勝に滞在する。
7月に続く2回目の事業で、夏の取り組みを知った帯広物産協会、帯広観光コンベンション協会と会員企業が協

柳月など

力を申し入れた。24日の帯広百年記念館で、昼食に、なごやか亭がすしを提供。同日夜、八千代牧場で「サンタメール」も届けられる。
星槎大学帯広サテライトは「多くの人が協力してくれて受け入れの輪が広がった」。帯広物産協会も「子供たちに十勝を楽しんでもらえれば」としている。(眞尾敦)

福島の子供にXマスプレゼント